

卒業を迎えて

准看護学科第 59 期

山下 愛理

この学校に入学してから、2年が経とうとしています。私は、育児・仕事との両立をしながらの学業でした。入学にあたり両立しながら、勉強についていけるか不安がありました。しかし家族の応援もあり「しないで後悔するよりも、して後悔した方が良い」と決意し入学したことを覚えています。

入学してからの2年間は、あつという間の時間でした。難しい授業内容や専門用語に戸惑い、不安で挫折しそうになった時もありました。しかし同じ目標を持って入学してきた仲間から、たくさんの勇気と元気をもらい乗り越えることができました。また目標を持って仕事や勉強をすることに、今までにない充実感がありました。

実習では、看護師としての志を学ぶことができました。実践を通して、看護の難しさ、奥深さを感じるとともに、自分自身の技術や知識の未熟さを痛感しました。実習が進み、受け持たせて頂いた患者さんの疾患などを調べていくうちに、今まで学習したことが看護の実際がつながるようになりました。患者さんが安心して療養できる環境を整えることが、命を守り、生きる力を強めることにつながることを改めて実感しました。そして傍で患者さんの言葉に耳を傾け、気持ちに寄り添うことも心を支える看護なのだと学びました。

ここまで来るには、自分一人では成し遂げられなかったと思います。私達のことを一心に考え、厳しくも温かくご指導下さいました諸先生方、切磋琢磨しながら共に学んだクラスメイト、いつもどんな時でも支えてくれる家族の支えがあったから今の私があるのだと思います。

振り返ると、クラスメイトや諸先生方との楽しかった思い出で満ち溢れています。戴帽式で誓った思いを胸に、患者さんにご家族の方々に寄り添える、熱心で明るく愛あふれる看護師を目指していきたいと思っています。